めざせ!!20万km BMW116i

ひとまず完結編

ついに走行19万4300km!

業界で噂になるほど距離を伸ばした認定中古車.comのシロBことBMW116i。
先月、めでたく初回車検のために工場へ入庫。
3年間に走った距離はなんと19万4300km!いや〜、よく働いたもんです。
シロBも営業部員も。ひとまず20万kmの目標達成と言っていいでしょう。
ごくろうさまでした、シロB! 今回はとりあえず総括の特別レポートです。

2009年10月に栃木県足利市へ出張した営業部員が人生に迷いながら撮ったシロB。この時すでに走行19万kmを超えていたわけです。そうは見えないですよね。

今も、過走行中!!

日本で最も走ったBMW116iの真実!!

BMW116iがわが社へやってきたのは2006年の仕事納めの日。なぜ社員からシロBと呼ばれるようになったのかと言えば、同じ日に黒の116iも納車されたから。でも、なぜかシロBだけがグングン距離を伸ばし、2008年9月には10万kmを突破!そして2009年12月に、ついに20万kmまであと5700kmというところまで迫り初回の車検となったわけです。とにかくまあ、よく走ったものです。普段は都心部の渋滞のなかを這いずりまわり、出張となれば西は松山から東は仙台まで、まさに盆も正月もなく任務をまっとうしたと言えるでしょう。

BMW116iってこんなクルマ

まずは116iのことを復習しておきましょう。BMWのエントリーモデルを担う1シリーズが上陸したのは2004年10月。満を持して世界的に競争の激しいCセグメントに投入されたわけですが、その市場には大御所のVWゴルフやルノー・メガーヌなどが待ち受けていて、並みの後発モデルでは歯が立たないわけです。で、BMWは1シリーズにこのクラスでは唯一となる後輪駆動という個性を持たせました。FR車の場合、一般的なFF車に比べるとパッケージングの面では不利になりますが運転する楽しさでは負けません。つまりファミリカー色の強い他ブランドのFFハッチバック車とは異なり1シリーズはあくまでドライバーが主役のクルマとしてデビューしたのです。1.6リッター直4ユニットを搭載する116iは、シリーズの末っ子ながら、電子デバイスや6段ステップトロニックAT、ランフラットタイヤなど上級グレードと同等の装備を持つことが特徴で、新車価格が200万円台のクルマにしてはかなりがんばった内容になっています。

距離が伸びた理由

シロBの稼いだ走行距離の6割は高速道路です。なぜそうなったのかというと、関西や中四国へ遠出する営業部員が他の営業車のキーをとらず、シロBのキーばかり持って出張に出たから。じゃあなぜ500kmを超えるような長距離ドライブをする者にシロBの人気が集まったのかというと、それはもう運転していて疲れないし、飽きないからです。ちなみにクロBは諸先輩がキーを奪ったままなかなか末端の営業部員が乗れなかったのであります。とにかく、116iの積む1.6リッター直4ユニットを舐めたらいけません。そりゃ、Lセグメントカーに比べれば静粛性には劣りますが、80km/hを超えてアクセルを踏み込んだときのサウンドはまさに快音、その加速力はかなり力強く、通用を感じたことなど一度もありません。営業部員のほとんどはクルマ好きですから、ステップトロニックをマニュアルモードに設定していたようですが、フル加速の際、レッドゾーン付近まで引っ張り自分の手でシフトアップしていくとスポーツカー並みの気持ちよさが味わえます。また、ピタッと路面に張り付くようなフラットライドを提供してくれるサスペンションも二重マル。当初は「いくらなんでも硬すぎやしないか」なんて言う輩もいましたが、いまではみなシロBの足の虜になっています。つまり、116iはちょい乗りもそつなくこなしますが、優秀な高速ツアラーであることをオドメーターの数字が証明しているのです。しかも、このクルマのすごいところは、新車時と19万km以上走ったいまの走行感覚がまったく変わらないこと。ただ距離を伸ばしただけではなく、エンジンやサスペンション、ボディのコンディションがいまもほぼ新車時のままなのです。最近のBMWの耐久性って本当にすごいんですね。

燃費も合格点

燃費が気になる方も多いでしょう。いまの時代、特にコンパクトなハッチバック車は、速い、楽しい、だけじゃダメですからね。116iは最近のエコカーには及ばないものの、クラスの平均点といったところです。街中では8〜9.5km/L、高速道路になると12〜13.8km/L。名古屋に出張した際、燃費走行に挑戦してみたのですが、復路では14km/Lを記録しました。しかもそれは昨年の秋でしたから、燃費性能も新車時のまま、ということが実証されたわけです。

メカニズムの信頼性

116iは間違いなく国産車並み、いや、それ以上の信頼性を持つクルマです。メカニズムの不具合はほとんど皆無。ただし、惜しくも完璧ではありませんでした。昨年の秋にATのモード切り替え(エコノミー/スポーツ/マニュアル)が不能になったのです。でもそれはトランスミッションそのもののトラブルではなく、電気系の些細な問題でしたから、まあ、18万kmを超えていたことを考えれば「よし」とするべきでしょう。不具合と呼べるのはその1回だけ。各スイッチやセンサーなど、いまも完璧な状態で作動します。エアコンやパワーウインドーのスイッチは何万回、何十万回、押されたでしょう。車庫入れのとき、ステアリングを据え切りするなど当たり前でした。耐久テストは合格! ですよね。ホント、すごい!

BMWは壊れない!

BMWはスポーティでカッコよくて楽しいクルマだけど、国産車に比べると、維持費がかかるとか、壊れやすいとか、5万kmを超えたらエンジンオイルが滲んでくるとか、いまだにそんなことを言う古典的なクルマ好きがいるようです。でも、それはもう過去の話。いまのBMWは国産車以上の信頼性と耐久性を持っていることを、日本で最も過酷な状況に置かれたシロBが身をもって証明してくれたわけです。エンジンオイル交換も2.5万kmごとという国産実用車と変わらないスパンで行っていました。しかもシロBの場合、数人の営業部員で使いまわしていたのです。間違いなく過保護ではありません。

BMWは壊れない! 走行20万kmでもビシッと走って、新車時と同じパフォーマンスを発揮する。これが結論となります。

過去のレポートはコチラから

めざせ!!20万km BMW116i

ひとまず完結編

走行19万4300km時に行った初回車検。主治医とともに116iの健康状態を検証!

シロBこと116iの担当メカニックはBMW東京・天王洲サービスセンターの石井直己氏。購入当初から診てもらっている頼りになる主治医です。車検レポートには彼も登場。真実を語ってもらいます。

頼りになる主治医
BMW東京・天王洲サービスセンター
石井直己サービス・アドバイザー

BMW東京が誇る国内最大級のサービス拠点となる“天王洲サービスセンター”。シロBは本国のメカニックと同様の教育を受けた精鋭と最新の設備が揃う巨大なサービスセンターで点検・整備を受けてきました。主治医の石井直己サービス・アドバイザーは認定中古車.comの取材に「とにかく3年で19万4300km走った個体を診るのは私も初めてでした。間違いなく過走行車です」と笑いながら話してくれました。さっそく車検時に行った精密検査の結果を訊いてみましょう。

「まずエンジンですが、新車時のパフォーマンスをほぼ維持している状態です。適度に回してあげて、2.5万kmごとのエンジンオイル交換を欠かさなかったことが奏功していると思います。トランスミッションは過去に一度だけモード切り替え(エコノミー/スポーツ/マニュアル)に不具合が発生していますが、それもハードの問題ではなく制御するソフトによるものでしたから現状はまったく問題ありません。トランスミッション本体はまだまだ使えると思いますからあらためて耐久性の高さには驚いています。サスペンションに関しては、今回の検査でリアのダンパーに若干のオイルの滲みが確認されましたので念のためリアの2本を交換いたしました。これは定期的な交換と思ってください。他のパーツはコンピュータで診断した後、目視でもチェックしたのですがまったく問題はなく交換の必要はないと判断しました」

ちなみに、今回交換したのはリアダンパー2本に加え、リアブレーキのディスクパッド、ワイパーブレード、パワステポンプ、オイルシール(クランクシャフト)、発煙筒。パワステポンプとオイルシールに関しては不具合が確認されたわけではなく、交換時期を迎えたためと考えていいでしょう。

車検の際に交換した部品。ワイパーブレード、オイルシール(クランクシャフト)、パワステポンプ、リアブレーキパッド、発煙筒、エアコンフィルター、リアダンパー。オイルシールとパワステポンプは保証でカバーされたので、総額16万5690円だった。19万4300km走った個体にしては安い!これがBMW車の真実なのだ。

ボディやシャシーの剛性感などを確認するため試乗もしてもらいましたが「まったく問題はありません」と太鼓判を押してくれました。19万4300km走った116iの状態はプロの目から見ても「健康」だったわけです。

ところで最近のBMWはリモコンキーが重要な役を果たしています。ドアやトランクの開け閉めを行うだけではなく、整備の履歴や走行距離からブレーキパッドの残量表示、また交換指示のデータまで入っているのです。簡易カルテと言っていいでしょう。メカニックはまずこのデータに基づいて各部を診断していきます。シロBのリモコンキーのなかにはエンジンオイルの交換を3年で7回以上行っていることなどがインプットされているわけです。果たして、12カ月点検やシーズン点検の際にそのデータを確認していた石井氏は過走行のシロBをどんなふうに見ていたのでしょう。

「最初の12カ月点検のときから診させていただいていますが、距離の伸びるスピードには驚きましたけれど不安になったことは一度もありませんでした。診断機で確認しても目視してもトラブルの予兆はまったくなかったですから。いつも安心して診ていました。これからもどんどん走ってください」と話す石井氏。精密検査の結果、「まだまだ走れる」と主治医からのお墨付きをもらったシロB。少なくともガタガタの老体ではありません。19万4300km走っても働き盛り!パリッとした現役なのです。

キー データ

BMW Service

チェックシートとは別に見せられたキーデーターシート、驚きました。リモコンキーは車両と随時データーのやり取りをしていて、走行距離からブレーキパットの残量表示から交換の指示まで出てきました。

過去のレポートはコチラから